

「国民の森林」を目指して、 日高流域の地域管理経営計画等の策定に関する地元意見交換会を開催

国有林では5年ごとに森林計画等を立てることとしており、日高森林計画区では平成27年度を始期とする計画を策定するに当たり、様々な地域情報や多様な地域住民等の意見を収集・反映させるため、10月30日に「日高流域の地域管理経営計画等の策定に関する地元意見交換会」の開催を企画したところ、日高流域管内の一般住民20名、道等の行政機関関係者17名の参加があったほか、北海道森林管理局、日高北部・日高南部森林管理署関係者51名が出席して開催されました。

日高南部森林管理署長より「住民参加の森林づくりを進めるため、地域住民の皆様方からご意見・ご要望を伺いたい」と挨拶の後、それぞれの担当者から説明を行いました。



局担当者より、北海道の森林と国有林の状況、森林計画策定における住民意見交換会の位置づけ、国有林の目指すべき方向、国有林におけるエゾシカ対策等の道全体に関わる説明の後、署担当者より日高森林計画区の森林の状況、これまでの署の取り組み、新計画策定に向けての署の考え方等について説明しました。

説明内容に対する意見交換では、「地域の森林・林業活性化のため、森林共同施業団地の設定を実現したい」「保護林など国有林は生態系保全に努めているが、一方で地元産業の振興につながる資源の活用が図られることも検討すべき」「森林ボランティア活動において、若い世代が参加しやすい取り組みをお願いします」「国有林だけでなく、民有林も含めた地域全体の森林が機能発揮するよう調整等をお願いします」等の個々の意見が出されたほか、総じて「国有林の様々な取り組みが身近に感じる有意義な機会となった」という声が多かったところです。



出席した職員からは、「地域住民等が一堂に会する機会に参加でき、

自分の管内の話題が出ないか緊張しましたが、いろいろな意見等を聞く貴重な機会となりました。今後は、少しでも意見等を聞く機会を増やして、住民の期待に応えていきたい」など、「国民の森林」として地域に信頼されるよう取り組みたいと改めて決意表明がありました。

意見交換内容や参加者のアンケート等からも、国有林への関心の高さや期待の大きさが感じられ、今後とも地域と一層連携した取り組みに邁進していきたいと思えます。